

白銅株式会社(7637)

2024年3月期第1四半期 決算説明資料

2023年8月9日

目次

1. 2024年3月期第1四半期 決算内容 P 2
2. 2024年3月期 業績予想 P17
3. 中期経営計画達成に向けた取り組み
(2023年3月期～2025年3月期) P20

2024年3月期第1四半期 決算内容

決算ハイライト

売上高

14,717百万円
(前年同四半期比 ▲8.4%)

売上総利益

2,211百万円
(前年同四半期比 ▲21.1%)

経常利益

687百万円
(前年同四半期比 ▲46.0%)

2024年3月期第1四半期サマリ

売上高

- ・半導体製造装置業界の停滞を背景に売上高が減少。前年同四半期比 Δ 8.4%の14,717百万円
- ・当連結会計年度より北米売上高1,154百万円が追加され、海外売上高は増加

売上総利益

- ・売上高減少による減益に加え、約2年半ぶりの棚卸資産影響額の差損2百万円の発生で、前年同四半期比 Δ 21.1%の2,211百万円

経常利益

- ・受取配当金が98百万円増加するも、販売重量の減少や人件費等の各種コスト上昇の影響が大きく、前年同四半期比 Δ 585百万円の687百万円

連結損益計算書（PL）サマリ

- 経常利益は、各種コストの増加や棚卸資産影響額の差損の発生により、前年同四半期比△46.0%の減益

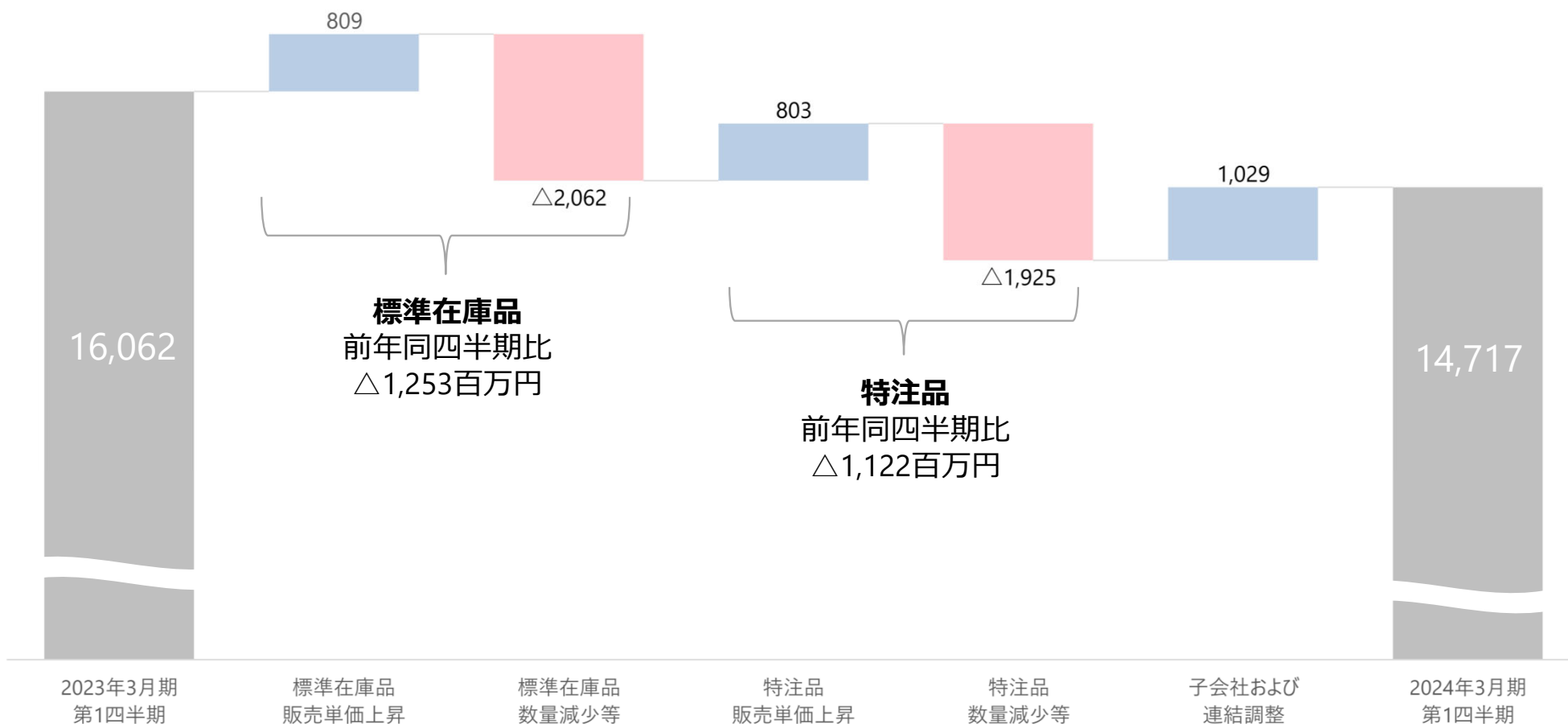
単位：百万円

	2023年3月期 第1四半期	売上高 比率	2024年3月期 第1四半期	売上高 比率	増減率
売上高	16,062	-	14,717	-	△8.4%
標準在庫品	9,980	62.1%	8,747	59.4%	△12.4%
特注品	6,082	37.9%	5,970	40.6%	△1.8%
売上総利益	2,801	17.4%	2,211	15.0%	△21.1%
営業利益	1,212	7.5%	551	3.7%	△54.6%
経常利益	1,272	7.9%	687	4.7%	△46.0%
棚卸資産影響額（△は損）	171	-	△2	-	-
為替差損益（△は損）	25	-	9	-	-
経常利益 (棚卸資産・為替影響を除く)	1,075	6.7%	680	4.6%	△36.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	888	5.5%	473	3.2%	△46.7%

売上高の前年同四半期比差異要因

- 標準在庫品、特注品ともに販売単価は上昇したものの、販売重量落ち込みの影響が大きく、前年同四半期比で1,345百万円の減少

単位：百万円

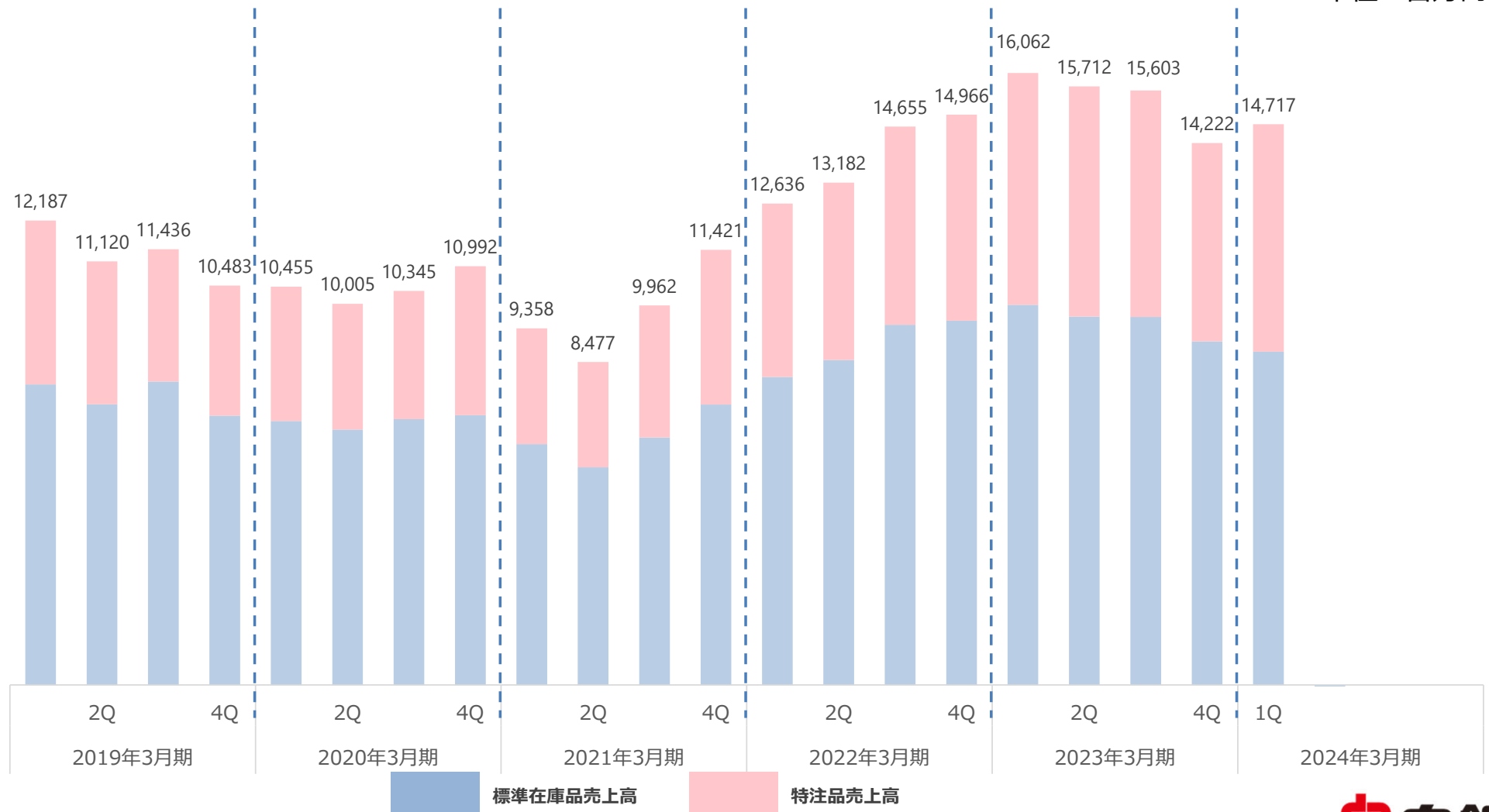


前年同四半期比 白銅個別標準在庫品 販売重量：△20% 販売単価：+10%

売上高の四半期毎推移

- 半導体製造装置業界向けの販売減少を主因とし、前年同四半期をピークに直近の売上高は減少傾向
- 但し、北米の売上高が加わったことにより2023年3月期4Q対比では増加

単位：百万円



品種別売上高

- 前年同四半期比では、伸銅およびステンレスで売上高が増加
- 半導体製造装置業界向けの主力商品であるアルミニウム売上高が、業界の低迷により15.3%の減収となっており、全体では8.4%の減収

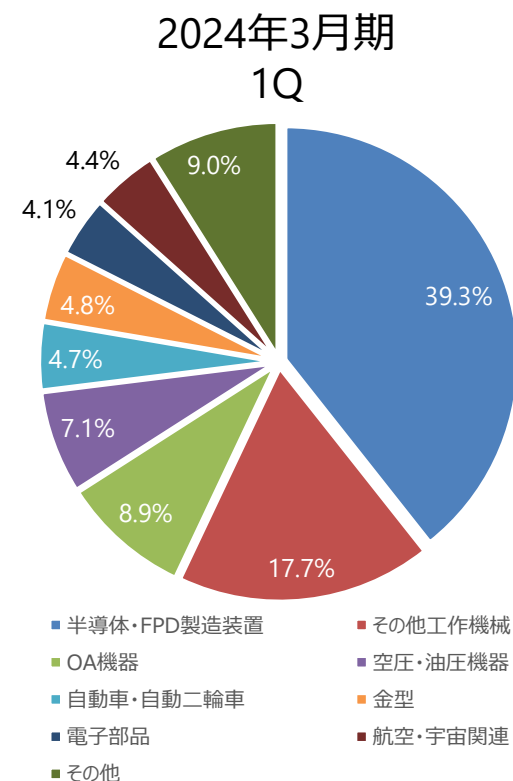
単位：百万円

	2022年 3月期				2023年 3月期				2024年 3月期 1Q	前年同 四半期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
連結売上高	12,636	13,182	14,655	14,966	16,062	15,712	15,603	14,222	14,717	△8.4%
アルミニウム	8,242	8,654	9,563	9,905	10,694	10,249	10,076	8,800	9,060	△15.3%
伸銅	1,780	1,766	2,033	1,919	2,106	2,010	2,134	2,248	2,138	1.5%
ステンレス	1,991	2,116	2,301	2,385	2,565	2,607	2,632	2,414	2,830	10.4%
その他	621	645	756	756	696	844	761	759	687	△1.3%

業種別売上高構成比率（国内）

- 前年同四半期比で、半導体・FPD製造装置向けの売上高比率が大きく減少
- その他工作機械や金型、航空・宇宙関連の売上高比率が増加したものの、売上金額では航空・宇宙関連を除き横ばいとなっている

	2023年 3月期 1Q	2023年 3月期 2Q	2023年 3月期 3Q	2023年 3月期 4Q	2024年 3月期 1Q
半導体・FPD 製造装置	47.2%	45.0%	43.0%	37.5%	39.3%
その他工作機械	15.0%	15.4%	15.5%	17.3%	17.7%
OA機器	8.6%	7.8%	8.6%	9.9%	8.9%
空圧・油圧機器	6.5%	6.9%	7.8%	7.4%	7.1%
自動車 (自動二輪)車	4.3%	4.9%	4.9%	4.9%	4.7%
金型	4.1%	4.7%	5.2%	5.6%	4.8%
電子部品	3.7%	4.1%	4.0%	4.3%	4.1%
航空・宇宙関連	3.1%	2.9%	3.1%	3.7%	4.4%
その他	7.6%	8.3%	7.8%	9.3%	9.0%



セグメント別業績

- 北米に2023年3月に取得したWest Coast Aluminum & Stainless, LLCの売上高を計上しており、海外売上高の増加に寄与
- 経常損益ではHakudo USA Inc.における買収関連一時費用等の影響により△37百万円の経常損失となり、利益面での貢献には至っていない

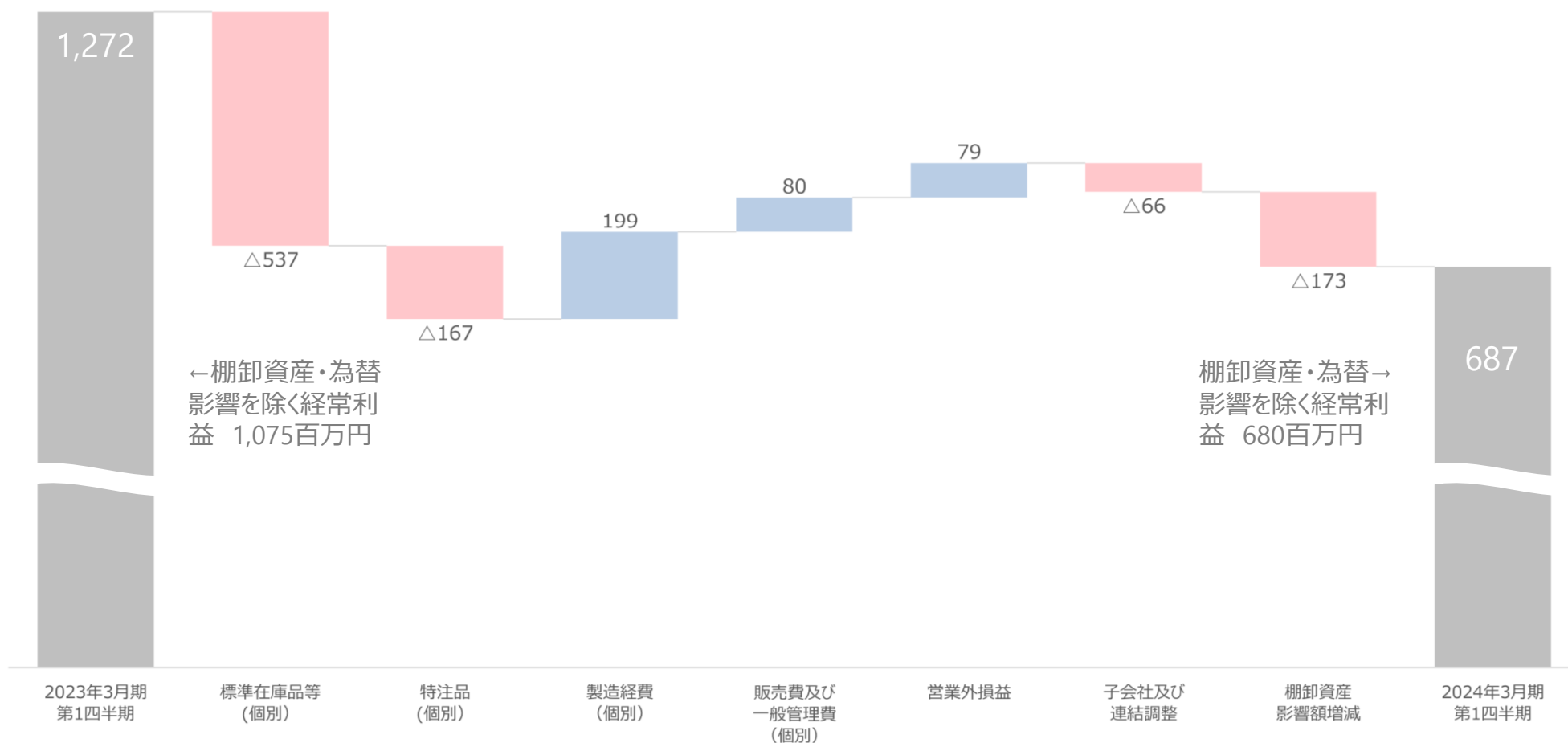
単位：百万円

セグメント	2023年 3月期 第1四半期				2024年 3月期 第1四半期			
	売上高	営業利益 又は 営業損失	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	売上高	営業利益 又は 営業損失	経常利益 又は 経常損失	親会社株主に帰属する 四半期純利益 又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失
日本	15,414	1,184	1,233	856	12,937	548	678	457
北米	-	-	-	-	1,154	△35	△37	△20
中国	357	△11	0	0	296	△6	1	0
その他	290	39	39	31	328	44	44	35

経常利益の前年同四半期比差異要因

- 販売重量の落ち込みによる減益に加え、運賃や電気料金をはじめとする各種コストの上昇や棚卸資産影響額の差損発生により、前年同四半期比585百万円の減少

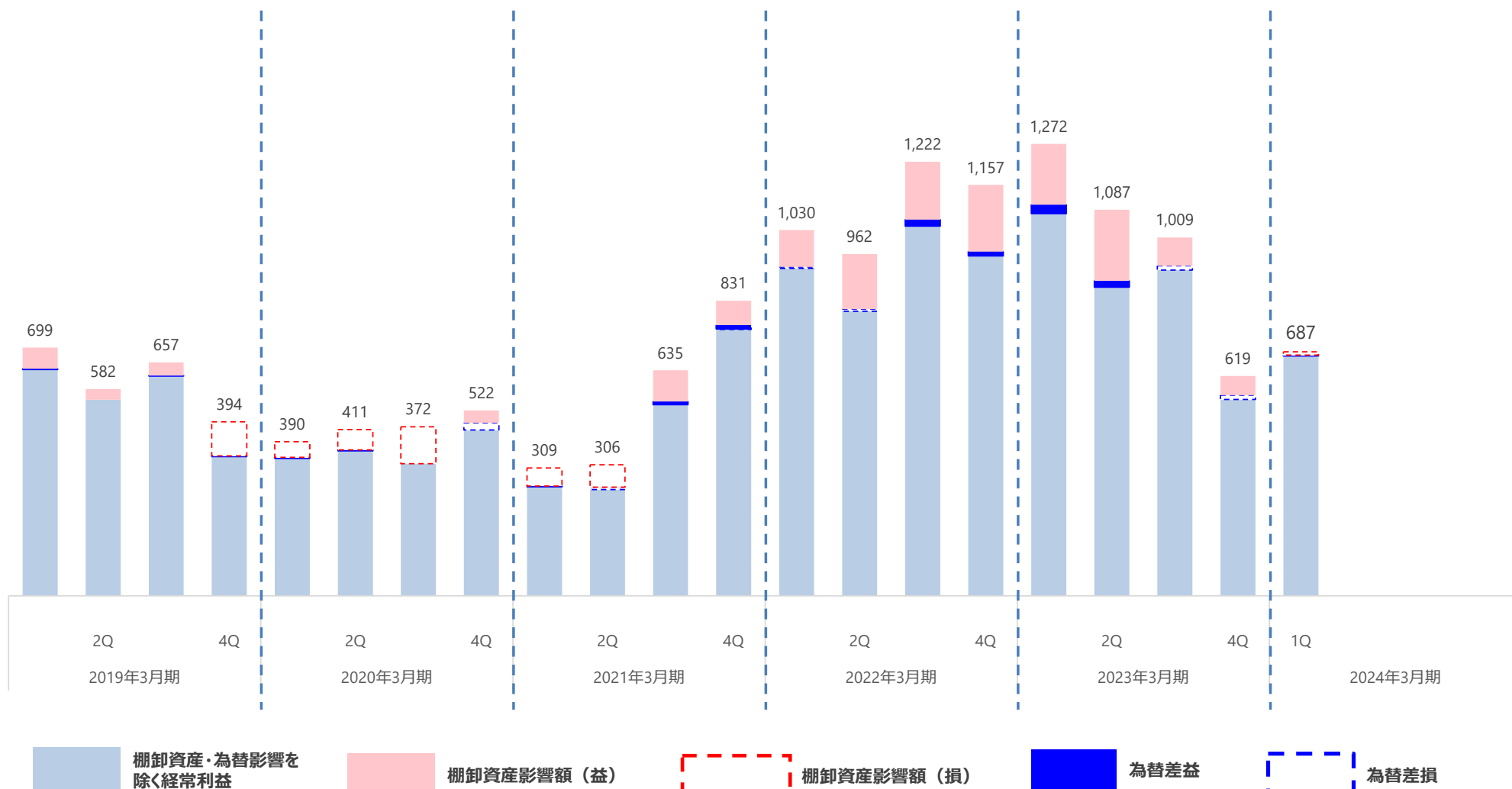
単位：百万円



経常利益の四半期毎推移

- 2024年3月期1Qは、販売重量減少に伴う売上高減少や棚卸資産影響額の差損の発生により減少傾向。

単位：百万円



貸借対照表 (BS)

- 前期に積上げた在庫の圧縮が進み、2023年3月末から棚卸資産が825百万円減少
- 設備投資や法人税等の支払い、配当金支払いなどにより現金及び預金が2,004百万円減少

単位：百万円

資産の部	2023年3月末	構成比率	2023年6月末	構成比率	増減
流動資産	33,829	78.4%	30,536	76.3%	△3,293
現金及び預金	6,038	14.0%	4,034	10.1%	△2,004
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	16,835	39.0%	16,476	41.2%	△358
棚卸資産	10,631	24.6%	9,806	24.5%	△825
その他流動資産	324	0.8%	219	0.5%	△104
固定資産	9,319	21.6%	9,465	23.7%	+145
有形固定資産	6,250	14.5%	6,300	15.8%	+50
無形固定資産	1,413	3.3%	1,386	3.5%	△27
投資その他の資産	1,655	3.8%	1,777	4.4%	+122
資産合計	43,149	100.0%	40,002	100.0%	△3,147
負債及び純資産の部	2023年3月末	構成比率	2023年6月末	構成比率	増減
流動負債	21,768	50.4%	18,606	46.5%	△3,162
支払手形及び買掛金 (含 電子記録債務)	19,020	44.1%	16,357	40.9%	△2,662
未払費用	860	2.0%	987	2.5%	+127
未払法人税等	579	1.3%	262	0.7%	△317
その他流動負債	1,308	3.0%	998	2.5%	△309
固定負債	151	0.4%	160	0.4%	+8
負債合計	21,920	50.8%	18,767	46.9%	△3,153
純資産	21,229	49.2%	21,235	53.1%	+5
負債純資産合計	43,149	100.0%	40,002	100.0%	△3,147

流動資産 △3,293百万円

- 法人税、配当金支払による現預金の減少
- 棚卸資産の減少

固定資産+145百万円

- 設備投資に伴う有形固定資産増加
- のれん償却による無形固定資産減少

流動負債 △3,162百万円

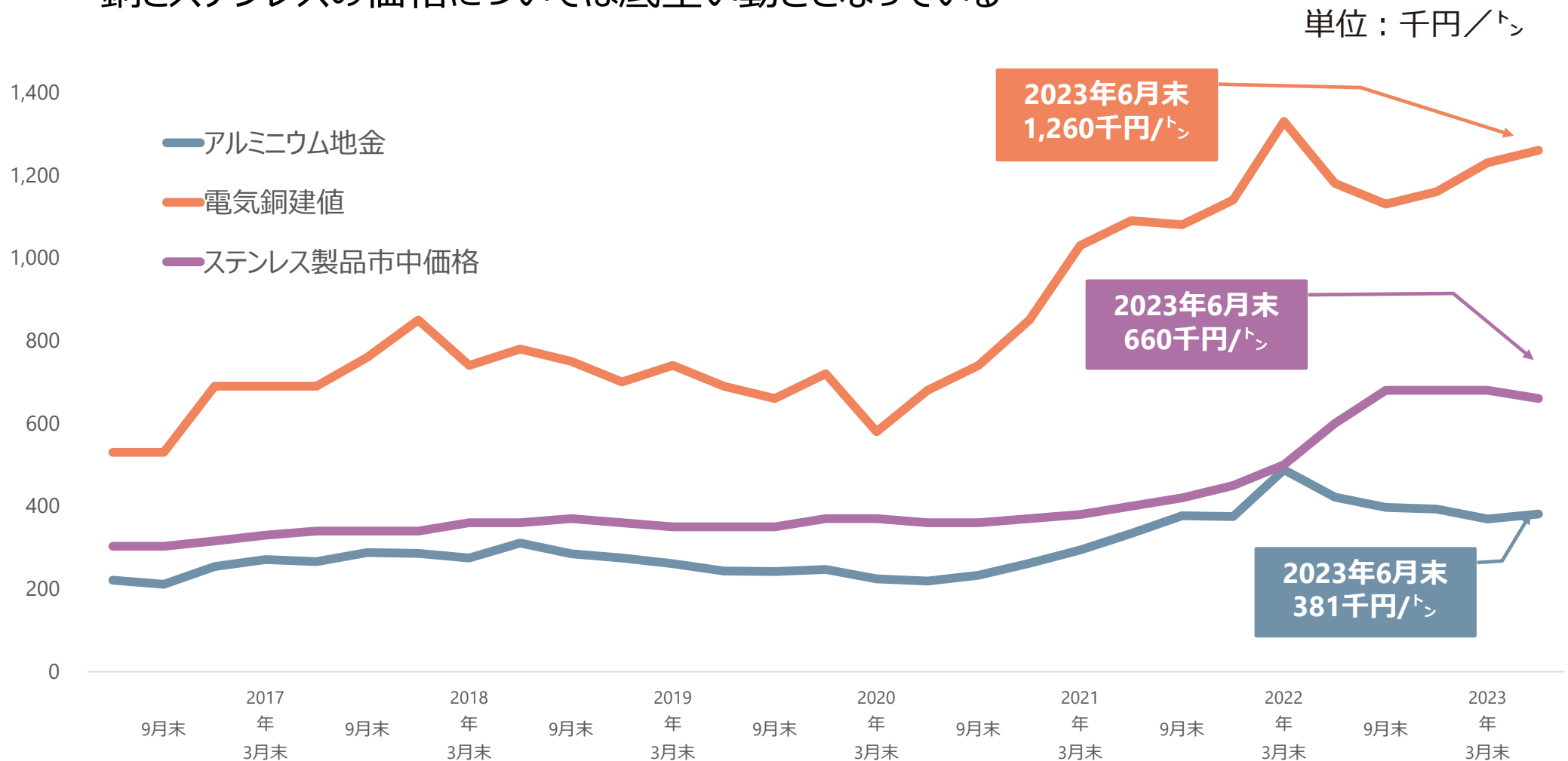
- 支払手形及び買掛金の減少
- 法人税支払（未払法人税等減少）

固定負債 +8百万円

純資産 +5百万円

事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

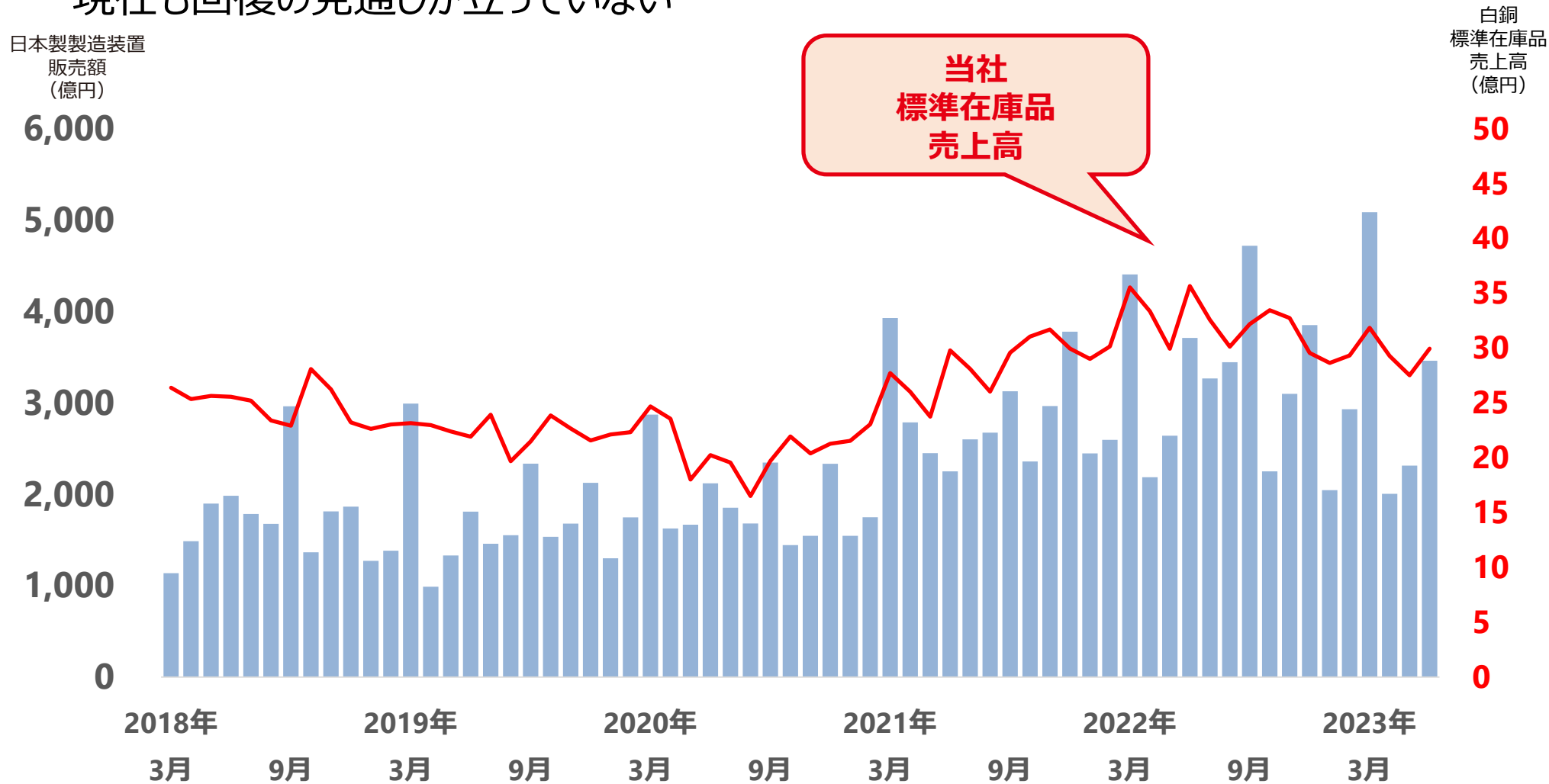
- 上昇を継続していたアルミニウムの原材料価格は2022年3月以降下落傾向であったが、直近は回復傾向
- 銅とステンレスの価格については底堅い動きとなっている



電気銅建値：JX金属による算出 ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値
 アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

事業環境（2）半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

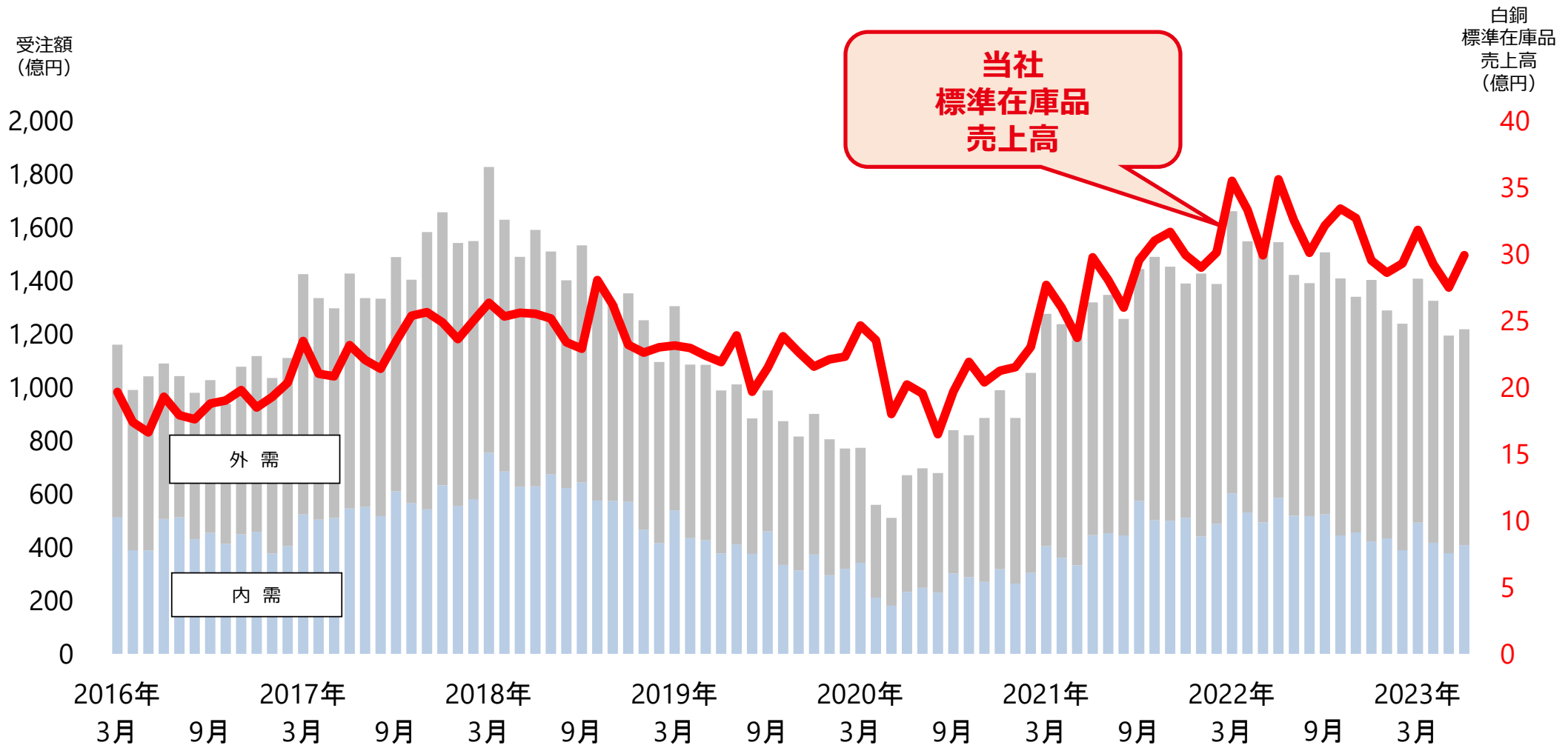
- 長期的にはIoTやDX、AIの推進などによる需要拡大が予想されているものの、半導体メーカーの在庫調整、生産調整による設備投資計画の見直しの動きが広がっており、現在も回復の見通しが立っていない



出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

事業環境 (3) 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

- 工作機械受注額は2022年3月をピークに下落の動きが継続
- 前年1Q(4~6月)期間比で外需は15.9%、内需は25.3%受注額が減少



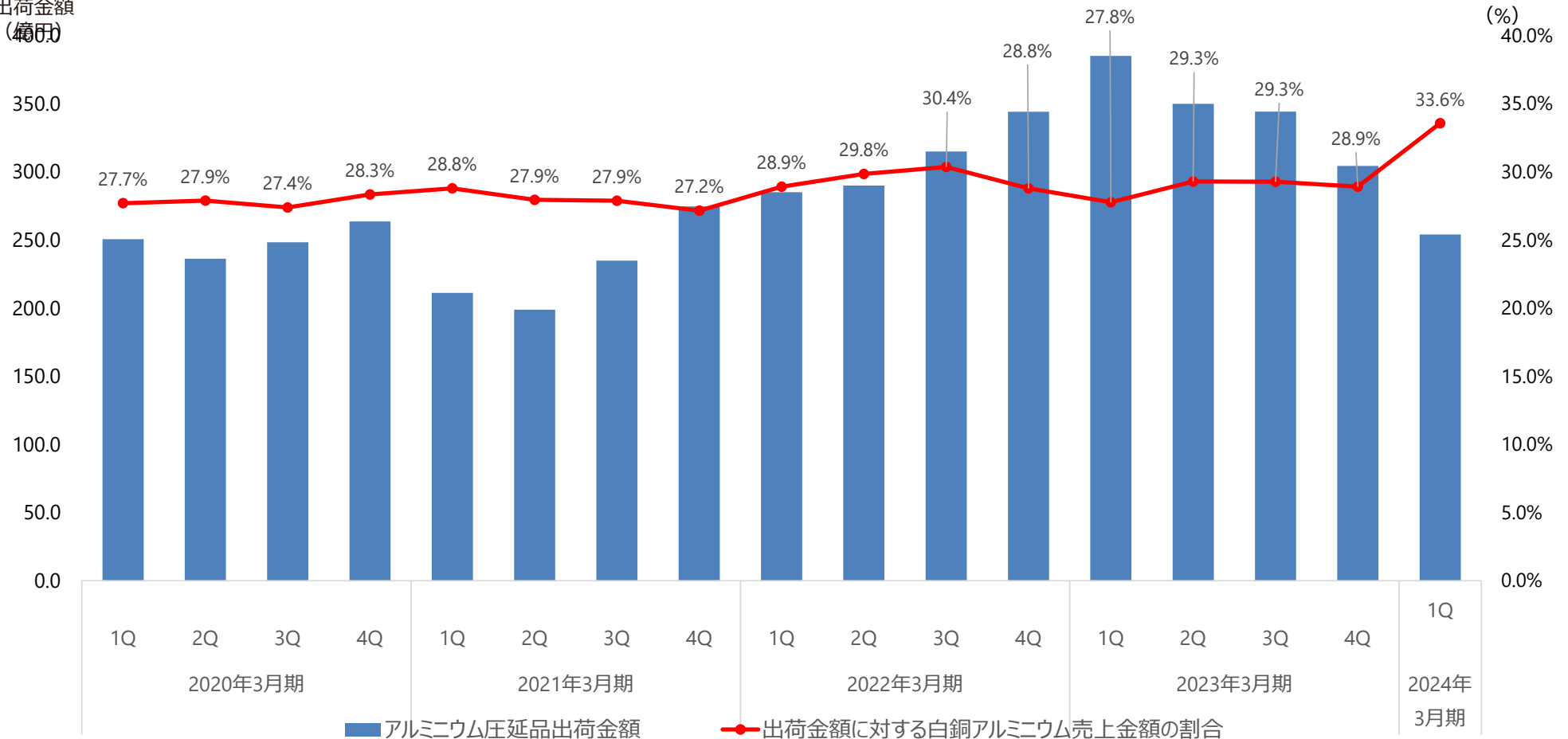
出典：日本工作機械販売協会 工作機械受注統計

事業環境 (4) アルミ圧延品出荷金額と出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上割合

- アルミ圧延品出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上は30%前後で推移
- アルミ圧延品出荷金額は前年1Q(4~6月)期間比で△34%と大きく減少しており、相対的に白銅のアルミニウム売上金額割合が増加

アルミニウム圧延品
出荷金額
(億円)

出荷金額に対する
白銅アルミニウム
売上金額割合
(%)



※ アルミニウム圧延品出荷金額は、板材(6.0mm以上)・円板・管・棒の合計。白銅アルミニウム売上高は、北米を除いた金額

出典：一般社団法人 アルミニウム協会 アルミニウム圧延品統計月報より

2024年3月期 業績予想

通期連結業績予想

- 期初予想と比較し、半導体製造装置業界の回復見込が後ろ倒しの様相があるものの、8月以降アルミ在庫製品の値上げや、業務改善の前倒しの影響等も勘案し、業績予想は据え置いた
- 金融市場及び為替市場についても変動が予想され、引き続き業績面への影響を注視

単位：百万円

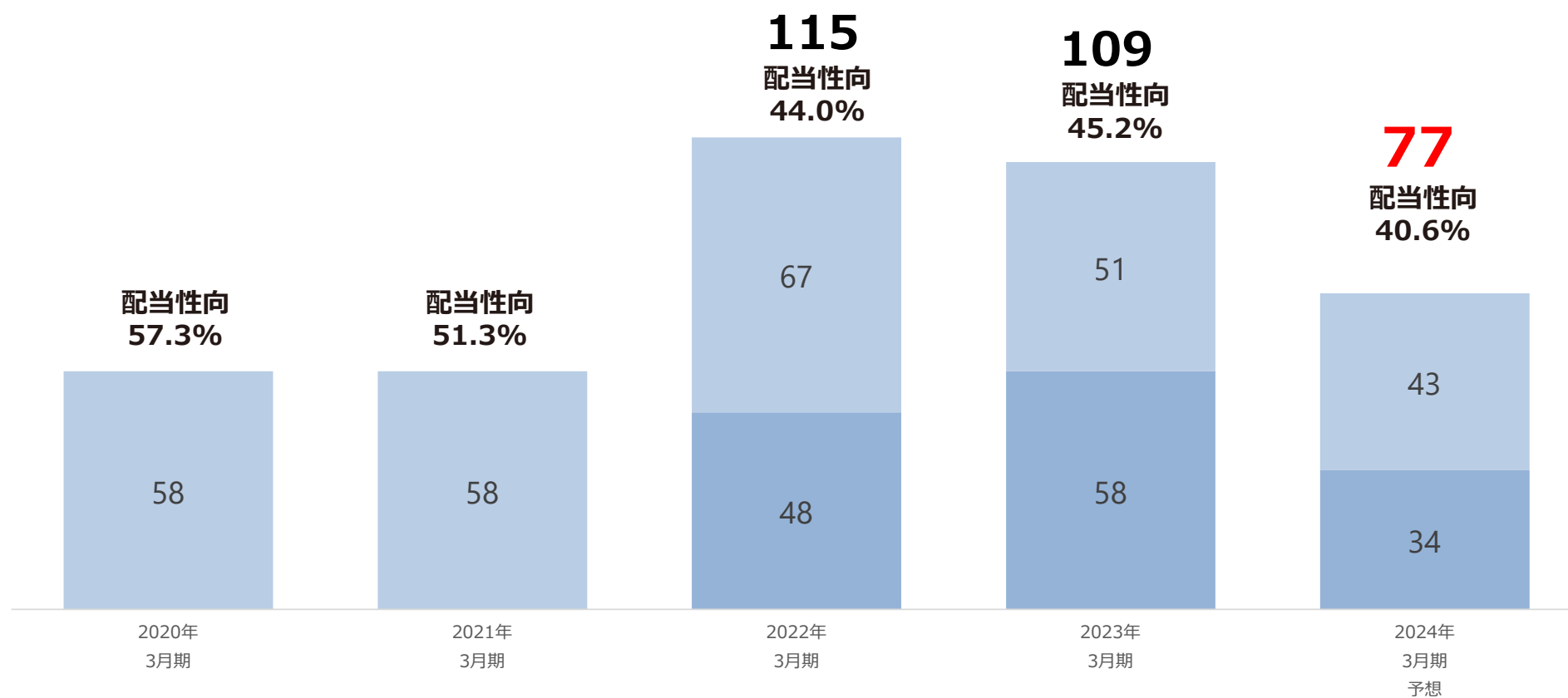
	2023年3月期 実績	2024年3月期 上期予想	2024年3月期 通期予想	対前連結 会計年度 増減率	中期経営計画 2024年3月期 目標値	中期経営計画 2025年3月期 目標値
売上高	61,602	30,900	63,200	2.6%	66,800	71,800
営業利益	3,777	1,240	2,970	△21.4%	-	-
経常利益	3,988	1,390	3,180	△20.3%	4,500	5,400
棚卸資産影響額 (△は損)	505	-	-	-	-	-
経常利益 (棚卸資産・為替影 響を除く)	3,463	1,390	3,180	△8.2%	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,737	940	2,150	△21.5%	-	-

※2024年3月期通期予想は、第1四半期連結累計期間までの棚卸資産影響額を見込んでおります
1USD=135円、1CNY=19.69円、1THB=3.67円で算出（2023年5月発表時点）

株主還元策（配当）

- 2024年3月期年間配当は1株あたり77円（前期比△32円）を予想

2024年3月期配当予想



下段 ■ が中間配当、上段 ■ が期末配当を示す。

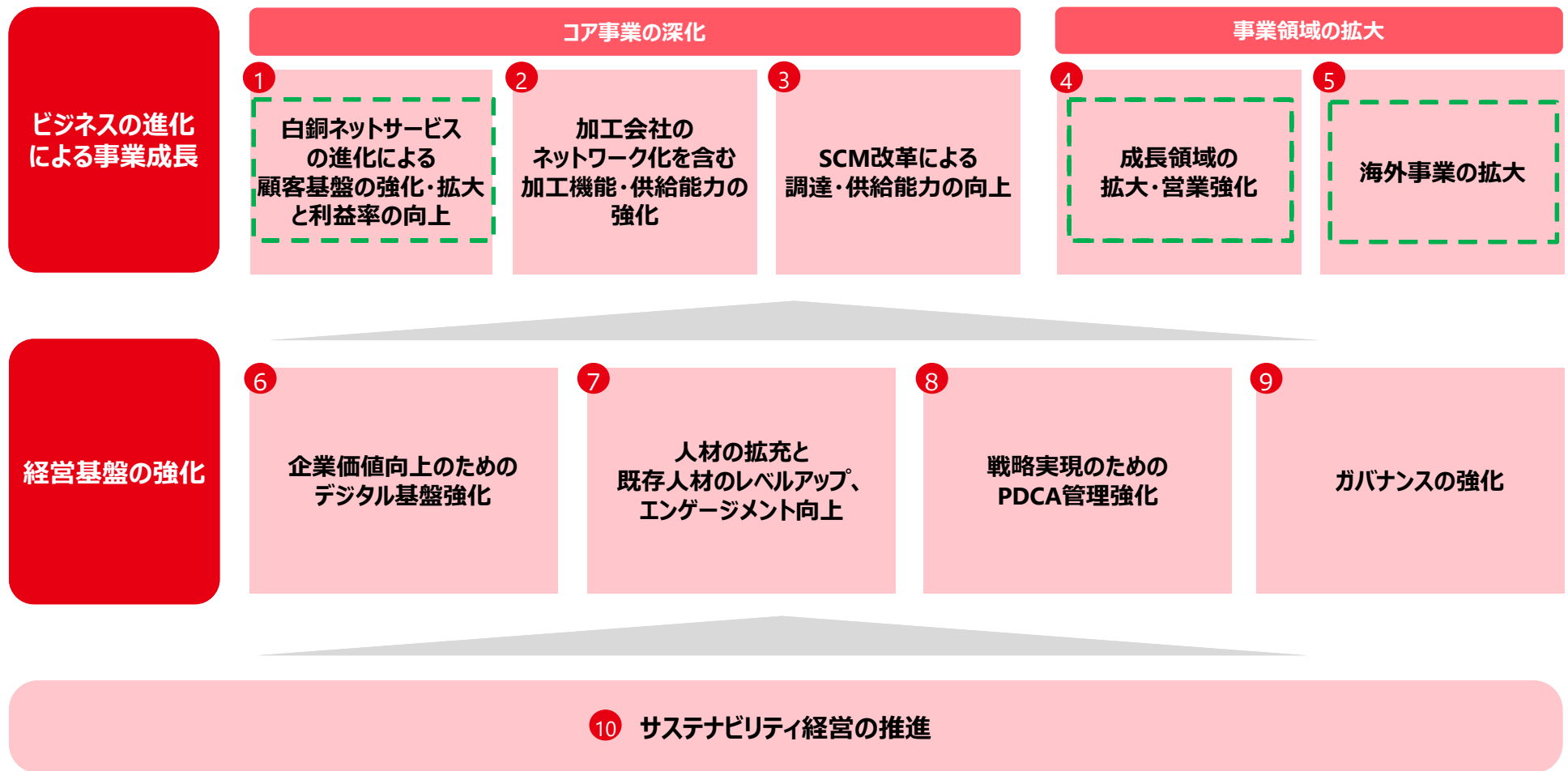
※2022年3月期は記念配当9円を含む金額

中期経営計画達成に向けた取り組み (2023年3月期～2025年3月期)

中期経営計画の重点戦略方針

- ダントツ戦略をベースに、2025年3月期までにビジネス進化と経営基盤の強化及びサステナビリティ経営の推進を図る

経営課題と重点戦略方針



*詳細は2022年5月26日開示の「中期経営計画」をご参照ください

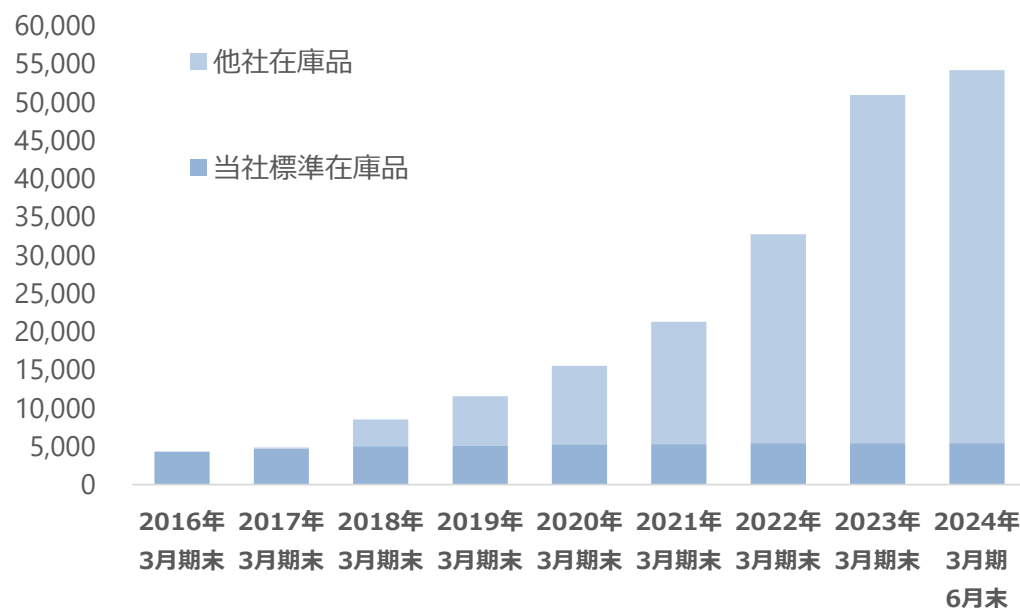
重点戦略の実施状況（1）

（1）白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

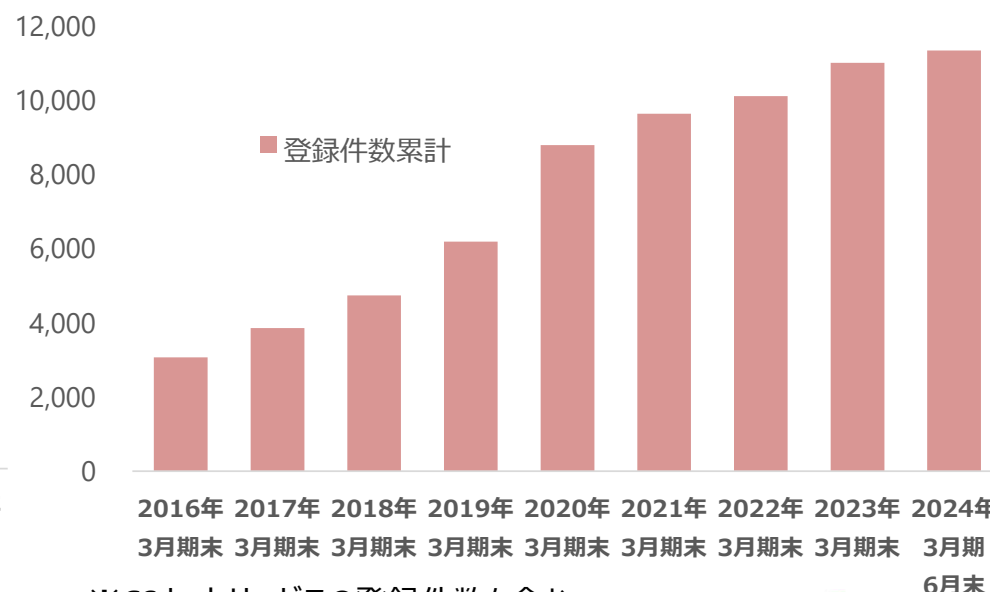
- ・他社在庫品を中心に取扱アイテムを拡充。当社標準在庫品と他社在庫品を合わせ、6月末時点で約54,100アイテムがご利用可能
- ・白銅ネットサービス登録件数は6月末時点で累計約11,000社に増加
流通業者のその先のお客様がご利用可能なCSネットサービスを展開



【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービスご利用登録社数推移（累計）】



※CSネットサービスの登録件数を含む

あたらしい、を、素材から。



重点戦略の実施状況（2）

（2）成長領域の拡大・営業強化

◆ 航空・宇宙領域

- ・ 三重県伊賀市に新拠点（伊賀倉庫）を設置。ウォータージェット切断機・マシニング加工機・ワイヤーカット機を滋賀工場から移管し、2023年4月から稼働開始

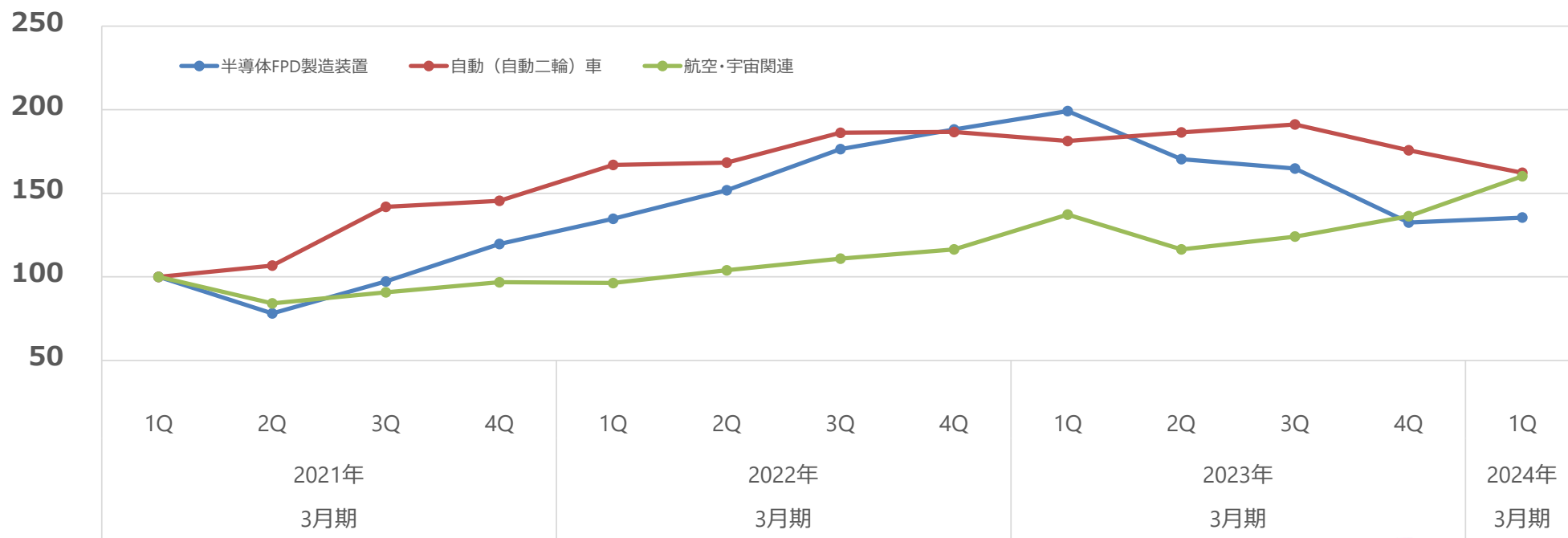
◆ 半導体領域

- ・ 半導体関連の販売先を専門部署に集約し、業界ナレッジを蓄積する仕組みを構築

◆ 自動車領域

- ・ 3Dプリンターを契機に自動車関連の新規顧客を獲得
- ・ 獲得した新規顧客に対し、他の商材の拡販を展開

【成長領域の売上高指数の四半期推移】



※2021年3月期1Qの売上高を基準とした売上高指数の推移

2023 © Hakudo Co., Ltd. All rights reserved.

重点戦略の実施状況 (3)

(3) 海外事業の拡大

- 2023年3月に当社の100%子会社であるHakudo USA Inc.が米国カリフォルニア州「West Coast Aluminum & Stainless, LLC」の51%持分取得を行い子会社化し、事業拡大中
- 第1四半期終了時点での海外売上高比率は14%と、中期経営計画3年目（2025年3月期）の目標値である白銅グループ海外売上高比率12%を前倒しで達成

活動状況

◆ 販売品目の拡大

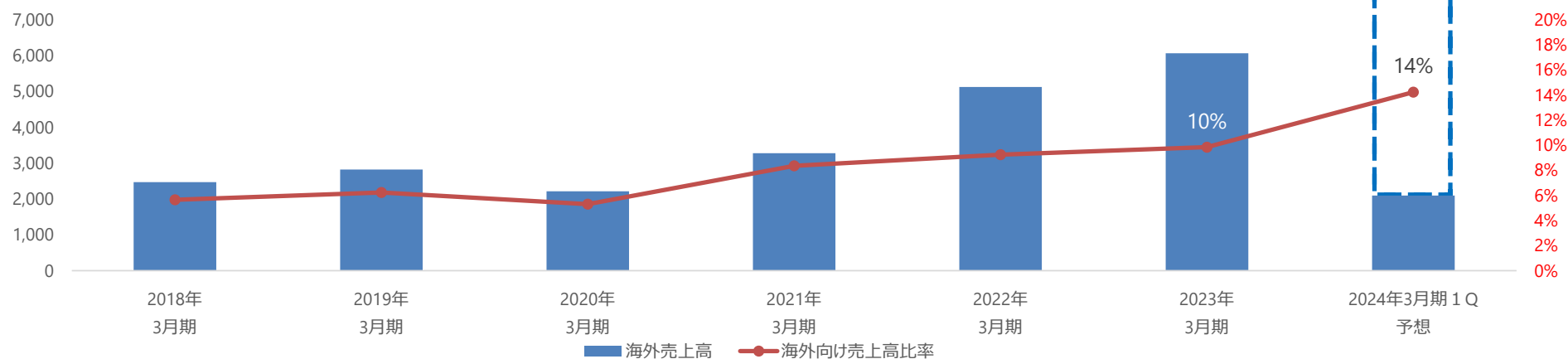
タイを中心に海外子会社でのEコマース事業の拡大を実施中
米国子会社での非鉄金属の輸入卸売・加工事業の拡大を計画中

◆ 出資・提携先の検討

米国・韓国・台湾を中心に投資先の検討及び訪問、協議を実施中

海外事業の売上高と海外売上高比率の推移

単位：百万円



※海外売上高は海外子会社売上高と海外子会社以外への本社輸出売上高の合計金額で算出

サステナビリティ経営の取組状況（1/3）



- ESG/SDGs経営委員会の下に設置した分科会の活動項目や目標に対して、現状までの取組み状況を下表に記載。取組み状況などを取締役会に報告し、提言や助言を踏まえて活動中
- 7月より7つ目の分科会となる「新商品・新サービス分科会」を発足。今後、ESG・SDGs関連の新規事業および新商品開発を推進していく予定

マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2024年3月期第1四半期取組状況
1.環境負荷軽減・気候変動対応	CO ₂ 排出量の削減	2020年度比で①2030年度までに42%削減、②2050年度までにカーボンニュートラル達成に向け、具体的な削減策に着手する	● 自社のCO ₂ 排出量	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 滋賀工場への太陽光パネル設置準備 ✓ FIT非化石証書の購入および利用 ✓ CDPの開示対応
	製造効率の改善	配送効率改善・産業廃棄物削減・スクラップ率低下などにより、天然資源の節約・枯渇抑制、環境汚染抑制による社会貢献を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費電力量 ● 運賃遞減率 ● 廃棄物金額 ● 製造部門消耗品費 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 配送網の再構築による効率化など配送効率改善活動を実施 ✓ 設備の待機電力削減 ✓ 切削油リサイクルの施策を継続実施
	オフィスペーパーレス化の推進	資源の無駄を排除し、リサイクル化を行うことで、コスト削減を行うとともに、森林保護等自然環境保護に貢献する	● オフィス印刷費用	✓ 電子化による会議資料の印刷費用の削減
2.責任あるサプライチェーンの構築	環境配慮製品の強化	環境負荷の少ない商品（ECO商品等）を安定供給することで、環境負荷に配慮した経営を推進し、社会貢献を行う	● ECO商品販売重量	✓ ECO商品拡販とECO商品ラインナップの拡充検討
	グリーン調達の促進	白銅独自のグリーン調達ガイドラインを、サプライヤーに遵守協力頂くことで、環境負荷に配慮した経営を推進し、社会貢献を行う	<ul style="list-style-type: none"> ● グリーン調達ガイドラインの遵守先との覚書取交件数 ● グリーン調達率 	✓ 各取引先との覚書の取り交わし実施
	サプライヤーとの関係強化	サプライヤーと協力し、CO ₂ 削減に配慮した施策を行うことで、サプライチェーン全体におけるCO ₂ 削減を促進し、社会貢献を行う	<ul style="list-style-type: none"> ● グリーンアルミ調達先発掘 ● リサイクルアルミ調達先発掘 	✓ CO ₂ 排出を抑えた電力を使用した原材料を基に製造された商品導入を検討
	人権の尊重	サプライチェーン上のパートナーと協力し人権に配慮した経営を促進する活動を行うことで社会貢献を行う	● 自社における人権ポリシーの策定	✓ 人権デューデリジェンスへの取組み開始

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI

サステナビリティ経営の取組状況 (2/3)



マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2024年3月期第1四半期取組状況
3.社会への取り組み	次世代への貢献	日本のものづくりの発展や人材育成を支援することで、次世代の技術の発展や人材育成に貢献する	● 産学協働検討案件数	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学の研究室に訪問、協働可能な新規案件を模索 ✓ 風力発電関連の研究開発を行う大学と連携し、商品化に向けた協議実施
	社会への貢献	持続可能な社会への貢献を行うことで、従業員が誇りを持ち、社会から信頼される企業になる	● 地域社会、団体への寄付額	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 飲料メーカーと提携し寄附型自動販売機の社内への設置 ✓ 子供の未来を見据えた寄付活動の実施
4.人材への投資	従業員満足度向上	従業員満足度の向上により、従業員各自の生産性や顧客対応へのモチベーションを高め、社会に与える影響力（社会貢献）、会社の業績に与える影響力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ● 離職率 ● 有給休暇取得率 ● 男性の育休取得率 ● 重大なヒヤリハット件数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 子育て、介護が原因で退職する従業員の防止策の検討 ✓ 福利厚生の充実と従業員への浸透活動 ✓ 職場巡視によるヒヤリハットの未然防止
	ダイバーシティの促進	多様な人材を登用、活用することで組織の生産性や競争力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性従業員比率 ● 女性管理職比率 ● 外国籍管理職比率 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 女性管理職研修及び女性管理職育成研修の実施検討 ✓ 処遇面における公平性、透明性の確保 ✓ 成果を出した従業員が、さらに挑戦できるように適切かつ公平な仕組みの検討
	社員教育の拡充	業務上で必要な知識・スキルの提供。また知識やスキルを身に着ける為の機会を提供する	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人当たり教育費用 ● 研修受講比率 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スキルマップの不足項目の洗い出し

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI

サステナビリティ経営の取組状況 (3/3)



マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2024年3月期第1四半期取組状況
5.コーポレートガバナンス	違反者ゼロ	ゼロ・トーランスを目指し、教育を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス違反件数ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コンプライアンス研修の実施 ✓ コンプライアンスにおける理解度チェックの実施
	ポリシー遵守状況確認	各ポリシーの遵守 ※現状のポリシー及び基本方針は以下の通り ・プライバシーポリシー ・コーポレートガバナンス基本方針 ・サステナビリティ基本方針 ・ディスクロージャー基本方針 ・社内環境整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 左記ポリシーの対応状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コンプライアンス教育の実施 ✓ 情報セキュリティ教育の実施
	事業リスク・災害への対応強化	事業リスク評価とBCP見直しを徹底。また、災害が発生しても訓練・対策実施により、従業員の安全確保と円滑に業務を再開する仕組みを作る	<ul style="list-style-type: none"> ● リスク評価ポイント ● 防災訓練等の実施数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ リスク評価ポイントの見直し ✓ 全社一斉の安否確認訓練実施
6. ESG/SDGs 経営委員会の社内浸透活動	社内浸透活動の推進	ESG/SDGs経営に関する啓蒙活動、イベントを行うことで、会社としてESG/SDGsに対する意識向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ● ESG/SDGs経営の従業員浸透度(アンケートで調査予定) ● エピソードコンテストの累計件数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ サンクスカードを導入し、従業員同士のコミュニケーションを推進 ✓ ESG/SDGs関連のポスター・書籍・動画の配布・配信 ✓ SDGsを絡めたビジネスプランの検討

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI

サステナビリティ経営の取り組み例

白銅は、モノづくりを通じた社会への貢献に加えて、スポーツ振興や自社農園による雇用創出など幅広い活動を行っています

スピードスケート



2022年4月にスケート部を創設しました。スピードスケートナショナル強化選手である伊藤貴裕選手（写真右）、土屋陸選手（写真左）の2名が所属しています。

白銅は、2026年ミラノ・コルティナオリンピックでのメダル獲得を目指す両選手の活躍を応援するとともに、スポーツ振興にも貢献しています。

白銅ファーム



白銅は障がい者就労促進の一環として白銅ファームを運営しています。2023年6月末時点で、3名の従業員が横浜市に在籍しており、葉物野菜をメインに約40種類を栽培しています。

また、2023年5月に2カ所目となる白銅ファームを埼玉県三郷市に設け、新たに7名の雇用を実施しました。

収穫した野菜は、子ども食堂への寄付や当社従業員に配布しています。

スーパーミニマムチャレンジ



スーパーミニマムチャレンジとは、50ccエンジンによる最速記録に挑戦するプロジェクトです。米国ユタ州のボンネビルで毎年開催されています。

バイクには白銅が提供したアルミ材も使用された2019年大会では世界最速記録を更新しました。

最近では、3Dプリンター造形部品も使用されています。

コマ大戦



コマ大戦とは、全国の製造業者が本気で制作したコマを持ち寄って戦うトーナメント式の大会です。各県で高校生コマ大会も開催されています。

神奈川県高校生コマ大戦には白銅が材料を支給して協賛するなど、日本のモノづくりの発展のための活動を行っています。

下町ボブスレー



下町ボブスレーは、大田区の小さな町工場が中心となり、世界トップレベルのソリを作り、産業のまち大田区の「モノづくりの力」を世界に発信するプロジェクトです。

下町ボブスレーの材料は白銅が無償提供しており、製作されたボブスレーは2023年1月の世界選手権で19位の成績を残しました。

(写真提供：国際ボブスレー連盟IBSF)

※ 2023年6月末時点の情報を元に作成

ご清聴ありがとうございました

■ 白銅公式SNSアカウントについて

弊社では、LINE、Facebookの公式アカウントを開設し、商品紹介や展示会の出展案内などのお役立ち情報を定期的に発信しております。以下のQRコードから、是非、お友だち追加をお願いします！



■ 本資料における注意事項

この資料には、2023年8月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■ お問い合わせ先

白銅株式会社 経営企画課
メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp
ホームページ：www.hakudo.co.jp